体験通し自身を育てる

中学校の修学旅行や教育旅行は大きく様がわりしてきた。単に見る行為から一歩進んで自ら五感を使って何かを感じ取る体験が主流となった。あるいは、核家族化で希薄になった人間関係を肌で感じる民泊も人気が高い。一方で、多感なこの時期だからこそ、日本の歴史や文化に触れて、知識と日本人の生き方を自ら感得する必要性が、グローバルな世界では改めて問われている。学校が求め、実施している旅行とはどのようなものか。目的や教育的意図、効果などを取材した。

学校法人　公文国際学園
6コース　各3泊4日　08年10月　実施

阿部信樹教諭

公文国際学園は、1993年に公文式教育の創始者である公文公（とおる）氏によって創立された中高一貫校。6年間の学園生活は「なりたい自分」の実現をキーワードに人間教育、創造教育、国際教育を、基礎期（中1、2）、充実期（中3、高1）、発展期（高2、3）の各成長段階に合わせて、きめ細かで効果的な指導を行っている。

いわゆる修学旅行は、国際教育の一環として発展期の高2でオーストラリアへ行っているが、充実期にあたる中3では日本文化体験を実施している。08年度の日本文化体験は、①牛コース～牛の命と私たち②合掌造りコース③ゆずコース～ゆずを求めてどこまでも④大豆を訪ねてコース～ネバー・ネバー・ランド⑤日本家屋コース⑥江戸風鈴コース～職人の技と心意気――の6コースが設定された。

各コース設定に至る経緯を振り返るとき、この日本文化体験を、中学校の一般的な修学旅行に例えるのは難しい。6コースの1つ「江戸風鈴コース」を担当した阿部信樹教諭は言う。

「企画立案から体験論文集（リポート）作成まで、すべて生徒が主体となって推進する。旅行会社選定に当たっても生徒がコンペにかかわる」

一連の流れを追うと、日本文化体験の実態がみえてくる。キーワードは「日本文化」「体験」「生徒主体」「分散型」だ。

生徒の多様な能力を日本文化体験で活現へ

日本文化をテーマに据えたコース企画は、2年次に各クラスの数人ずつが班を形成し、それぞれが内容を研究した上で、他の班に対してクラス内プレゼンテーションを行い、コースの絞り込みをする。クラスで絞り込まれたコースは、3月に学年全体でのプレゼンテーションへと移り、3年次に実施する最終的な6コースが決まる。さらに、興味を抱いたコースごとに参加生徒が集い、体験にふさわしい研究内容の整役――ファシリテーターに徹しているようだ。

そうして練り上げられたコースは、研究内容にふさわしいデスティネーションやアクセス、宿泊先の選定など具体化の段階で、旅行業者との接点が生じる。生徒の希望を単に盛り込んだだけのコース造成では、体験旅行の受注はできない。江戸風鈴コースを担当したトップツアーの西潟拓也氏は「研究先の選定をはじめ、一般的な修学旅行とは異なる発想で取り組まなければ、決して納得してもらえない」と振り返った。旅行会社選定のコンペにも生徒が関与するからだ。ちなみに、コースごとに旅行を造成する業者は異なる。「業者へ習を重ねることで、何をすべきが確実に身につい、コースの絞り込みをしてくる。互いに補完しあうことでイマジネーションは無限に広がる。そこでの教諭は、中立な立場で話し合いに参加し、想定した結論に落とし込むのではなく、議論を深めて参加者が合意に至る調せなければ、成果の細部までリアルに伝えている。見聞した1、2年生はその場で感想を記述し、それが感動度合いを示す投票結果にもなり、最も高い評価を受けた1コースが、3月に行われる「国際理解デイズ」のエキシビジョンにノミネートされる。ただし、1、2年生がそうしたコースを踏襲するわけではない。前年（07年度）は、捕鯨、乳業、忍者、飴細工、茶道、讃岐うどんなどの文化体験が行われた事実が、それを如実に物語っている。

これら一連の日本文化体験は、体験そのもの意義に加えて、企画力やプレゼンテーション能力、問題設定と解決へ向けたさまざまな能力を、生徒自身が自ら身につける意味も極めて大きい。

６コースで体験した日本文化について、参加者全員が思いを込めて執筆したＡ４版500ページに近い論文集。そこには、中学生ならでは、あるいは中学生を越えた内容がつづられている。

江戸風鈴づくりで難しいとされるガラス吹きも体験

江戸風鈴コースの初日、篠原風鈴本舗で職人と対面（上）の後、尾島硝子工芸へ（いずれも東京都内）。２日目以降は竹炭工芸都美、木之本漆器（いずれも福島県内）、さらに及原鋳造所（岩手県）、４日目は再び篠原風鈴本舗に戻り、各所で学んだ江戸風鈴との違いなど、毎晩討議を続けた成果を発表（下）。日本文化を守る後継者不足をはじめ、もの作りの温かさ、職人技と達成感などが語られた。

篠原風鈴本舗では風鈴の内側から描く絵付けも体験した（中）。

武蔵野市立　第四中学校
南信州地区　4泊5日　08年5月　実施

熊井重彰校長

大人の働きかけ方が学習成果に影響与える

東京23区のベッドタウンとして住宅地が広がる都市・武蔵野市。同市は山村留学にヒントを得た独自の農山漁村での宿泊体験学習「セカンドスクール」におよそ20年前から取り組んでいる。普段の学校生活では得られない体験や学習を「総合的な学習の時間」を中心に、特別活動や社会科、理科の授業に位置付けて行うもので、95年には市内の小学校13校が、96年からは市内公立小中学校全18校がセカンドスクールを開始。現在、市内の小学5年生と中学1年生で行っている。

市の中心部に位置する武蔵野市立第四中学校（全校生徒438人）も96年のスタート以降、静岡県御殿場市などで実施。01年からは長野県の南信州地域、特にこの6年は売木村での滞在と体験を中心に行っている。

静岡へ行っていた当時は企業見学などを行っていたが、「農業体験をさせることで、自然や地元の人と触れ合いを体験させたかった」と、長野のセカンドスクール選定の経緯を熊井重彰校長は語る。

昨年は5月30日から6月3日までの4泊5日の日程で実施。1年生148人が参加した。キャンプ場での飯ごう炊さんや、登山などを行ったが、やはり最も重要視しているのは、2日目の午後から3日目の夕方までの農家泊と農業体験だ。

生徒らは4、5人ずつのグループに分かれ、売木村を中心に、同村に隣接する町村の農家36軒に分宿。農家ごとに薪割りや畑の草刈り、シイタケの菌を繁殖させた「駒」を木に打ち込む「シイタケの駒打ち」などに取り組んだ。

各農家へは事前に顔写真入りの自己紹介カードとあいさつ状を送付。すでに生徒の名前と顔を覚えて待っていてくれた農家の人に生徒はみな、すぐ打ちとけたという。

「セカンドスクール終了後の事後作文でも農家宿泊について書く生徒は多く、一番の思い出となっているようだ」と熊井校長は話す。農作業体験もさることながら、受け入れ農家との触れ合いは代えがたい体験となっている。たった1泊の滞在にもかかわらず、その時間に生まれる結びつきは強く、「セカンドスクール後に手紙のやり取りを続ける生徒はもちろん、夏休みに家族で泊まりがけで訪問する生徒もいるほど」（熊井校長）。

それほど充実した時間であるため、農家泊については2泊の実現が学校側の理想だ。「2泊であれば、農業の素晴らしさ、大変さなどもっと深く体験させられるのではないか」と熊井校長は考える。しかし受け入れ側の高齢化や兼業農家の負担などからその実現は難しい。

そこで2泊で農業体験を充実させようと、昨年初めて民泊の後に田植え体験を行った。規模の大きな田んぼを使い、両側に一列に並んだ生徒たちが双方から苗を植えていく「学年合同田植え」。両側から張られたガイドロープを頼りに、学年全員が一斉に植えを進んでいく様子のスケールの大きさ、達成感は、「生徒にとって非常に印象的な体験となったようだ」（熊井校長）。

また、田植え体験は村との継続的なつながりも生んだ。役場の担当者が生徒たちの植えた苗の様子を写真に撮り、11月までの間定期的に学校に知らせてくれたのだ。「廊下に張り出される稲の写真を生徒たちも楽しみにしていた。本当にありがたい心遣いだった」（熊井校長）。さらに秋には60キロの新米となった生徒たちの稲と共に売木村の人が学校を訪問。そこでも生徒と売木村の人との交流が生まれたという。

四中の生徒のほとんどは武蔵野市の3つの小学校から進学してくるため、小学校でセカンドスクールを経験しており、「農業体験は初めて」という生徒はほとんどいない。それでも農業体験や地元の人との触れ合いを「新鮮な体験」と生徒に感じさせるには、「周囲の働きかけが重要」と熊井校長は指摘する。

「体験そのものは同じでも、小学生と中学生では学びの内容、質は異なる。中学生の知識や中学生への学習内容に合った事前指導があればこそ、小学生ではなく『中学生の』セカンドスクールとなる」（熊井校長）。

そのため同校では事前学習に総合的な学習の時間15時間を当て、学年、クラス、班単位での発表会や生活の決まり作成などを実施。また飯田市の農業やリンゴの栽培方法などのテーマについて調べ学習を行い、個人新聞を作成させている。

熊井校長は『あ、小学校でもやったよ』で終わらせてはいけない。受け入れ農家側の農業体験のさせ方や生徒に対する接し方なども含め、教師ら大人の働きかけ方が生徒の学習成果に大きな影響を与える」と話す。

一斉に苗を植え進んだ南信州での田植え体験

ふた手に分かれての田植えは壮観

慣れない作業に汗が光る

地元の厚意で早朝の釣り体験

映画村の体験学習
自然にこだわり、昔にこだわる

清水焼絵付け体験 ＜【素焼】陶芸作家の岡本和芳さんの指導により、生地に絵付けをしていただきます。【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに３色のカラーを使って絵付けをしていただきます。
NEW ドラマ映像講座　シナリオ(台本)を教材にコンテづくりを解説。次にそのコンテをもとに撮影したサンプル映像をご覧いただいて、ドラマの映像づくりのひみつを学んでいただきます。
殺陣講座　東映京都撮影所の殺陣師が立ち回りの形をお教えします。もちろん安全性は十分配慮しています。木刀を使って時代劇を体験してください。
京扇子・京うちわ手描き体験　舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。
NEW 万華鏡手づくり体験　素朴な風合いの「万華鏡」づくりを、創業明治２６年の老舗和紙工房とのコラボレーションにより実現！色とりどりの千代紙を選んでオリジナルの「万華鏡」づくりを制作体験いただけます。
きもの着付け体験　京都は西陣織などの和装産業が盛んな都市です。きもの姿で映画村の江戸の町を歩いてみませんか。着付けのスタイリストがお手伝いいたします。
本格的時代劇扮装体験　メイク、結髪、着付けまで東映のベテラン専門家がお手伝いし、映画やテレビに出演するスターと同じ本格的な時代劇扮装をお楽しみいただけます。
※体験学習は全て有料・要予約となります。

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで!
TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
〒616-8586 京都市右京区太秦東蜂ヶ岡町10番地
お問い合わせ ✆075-864-7716　催し物ガイド ✆075-864-7788
営業時間／9:00～17:00　(12月～2月は9:30～16:00まで)
休村日／12月24日～31日　http://www.toei-eigamura.com

情報発信0円
観光経済ドットコム（月間99万PV）の「情報掲示板」に情報とURLを投稿して下さい。
インプレッション効果（ただで宣伝できる）
トラフィック誘導（自社サイトに誘導できる）
SEO対策（検索エンジン最適化に役立つ）
お宿の皆さまへ
自治体・観光関連団体の皆さまへ
観光業界のすべての方へ

お宿をPR

地域観光イベントをPR

意見・情報交換
セミナーPRコーナー

kankokeizai.com | 週刊観光経済新聞
http://www.kankokeizai.com
※情報掲示板はトップページにあります。